

第 339 回金沢眼科集談会 プログラム

日時 平成 29 年 4 月 16 日 (日) 10:00~13:00

会場 金沢大学附属病院 4 階宝ホール

※例年と会場、開始時間が変更になっておりますのでご注意ください。

連絡先：〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 眼科事務室直通

F A X (076)222-9660 眼科事務室直通



■金沢駅からタクシーで約15~20分 ■バス(金沢ふらっとバス) 菊川ルート「大学病院」下車

- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されています。
- ・ 一演題質疑応答含めて約 15 分を予定しております。
デジタルプレゼンテーションに限ります。
パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録 (400 字以内) をデータ形式にてご提出下さい。

— 次回ご案内 —

平成 29 年 12 月 17 日 (日) の予定です。

一般講演

(10 : 00～10 : 30) 座長 ^{ともまつ}友松 ^{たけし}威先生 (福井大)

①トーリック IOL 回転に関わる因子

○^{しぶや えり}渋谷恵理、岡本綾子、北 舞、柴田奈央子、高橋依子、石田秀俊、柴田伸亮、
久保江理、佐々木 洋(金沢医大)

②アイトラッカーによる水平 Smooth pursuit の計測

○^{みはら みはる}三原美晴¹⁾²⁾、林 篤志¹⁾、藤田 和也¹⁾、掛上 謙¹⁾、田村 了以²⁾
1)富山大眼科 2)富山大統合神経科学

(10 : 30～11 : 00) 座長 ^{みはら みはる}三原美晴先生 (富山大)

③0.05%ジフルプレドナート点眼薬使用による網膜光凝固術後の炎症性 サイトカイン抑制について

○^{かきもとひろし}柿本宙志、高村佳弘、有村尚悟、三宅誠司、松村健大、後沢 誠、岩崎健太郎、
稲谷 大 (福井大)

④中高年の近視矯正に施行した有水晶体眼内レンズ(ICL™)挿入術

○^{たがわこうさく}田川考作(小矢部たがわ眼科)、浅井宏志(あさい眼科クリニック)

特別講演 1 (11:00~12:00)

座長 ^{ひがしでともみ} 東出朋巳 (金沢大)

「OCTアンジオグラフィーと血管鋳型標本」

金沢大学 教授 ^{すぎやまかずひさ} 杉山和久

OCTアンジオグラフィーは、眼底内の静止している部分(組織)と動きのある部分(血流)を判別する原理(SSADA)を用いて、これまで観察できなかった網膜深層や視神経乳頭深部の毛細血管網を非侵襲的に描出でき、さらに毛細血管の密度を定量的に解析できる。これによって、緑内障における3次元血管構築の構造的変化を観察・解析でき、緑内障の診断や病態解明の一助となる日も近いと思われる。本講演では、OCTアンジオグラフィーで観察される視神経乳頭の微小血管像を、演者が若き日に研究した視神経乳頭部の血管鋳型標本(サル眼)を用いて解説する。また、緑内障性視神経乳頭における放射状乳頭周囲毛細血管層の変化を、OCTアンジオグラフィー画像と血管鋳型標本の双方を用いて詳説したい。

略歴

1984年	金沢大学医学部卒業
1990-92年	米国オレゴン医科大学眼科および Devers Eye Institute 留学
1996年	岐阜大学眼科講師
2000年	岐阜大学眼科助教授
2002年	金沢大学眼科教授 現在に至る
2010-16年	金沢大学附属病院 副病院長

特別講演 2 (12:00~13:00)

座長 ^{すぎやまよしこ} 杉山能子 (金沢大)

「弱視診療のアップデート」

浜松医科大学 病院教授 ^{さとう みほ} 佐藤美保先生

弱視診療に関しては、最近新しいスクリーニング方法、新しい治療法の有効性が報告されています。これまで経験と伝統に基づいて行われていた弱視診療に対して、新しい情報を取り入れていくことは大切です。

特に 1997 年に設立された PEDIG (Pediatric Eye Disease Investigator Group) が多くの多施設共同研究の成果を発表しており、これまでに出版された論文が 60 以上もあることから、いかに精力的に研究されているかがわかります。これらの研究は、弱視治療の評価方法に始まり、屈折矯正のみの弱視治療、健眼遮閉とアトロピンペナリゼーションやバンガーターフィルタによる訓練、遮閉時間と治療効果、遮閉中の近業の効果の有無、治療が与える精神的ストレス、治療開始年齢と効果、治療と立体視、治療と屈折変化、治療の長期予後、治療後の片眼読書速度、レボドーパによる治療効果、など多方面にわたっています。また、従来の遮閉法やペナリゼーション法とは異なる全く新しい弱視治療方法として、左右眼を分離して両眼視の状況でビデオゲームをする方法も検証中です。

日本は、3 歳児健診というすばらしいスクリーニングシステムがあり、さらに就学前にも幼稚園や保育園で視力検査が行われています。よりスクリーニングの効率を上げる方策、スクリーニングで拾い上げられたこどもたちにどのように対応していけばよいかについてもお話ししたいと思います。

略歴

1986 年	名古屋大学医学部卒業
1993 年 9 月-1995 年 3 月	米国 Indiana 大学小児眼科斜視部門留学
1997 年 7 月	名古屋大学眼科学講師
2002 年 7 月	浜松医科大学医学部眼科学助教授(准教授)
2011 年 1 月 1 日	浜松医科大学医学部病院教授
2016 年 7 月	日本弱視斜視学会理事長